

ホームでもアウェイでも ないフェアな場所



生活者として暮らすムスリムの
ための日本語講座の実践から
見えたこと

深江 新太郎 妹川幸代

問題意識

□ イスラム教徒と日本社会の異文化共生

福岡市で暮らすイスラム教徒（以下、ムスリム）

— 現在：約1000名（福岡モスクの調査）

ムスリムは宗教上の制約から限られた範囲
でしか生活できない

問題意識

□ 宗教上の制約？

食に関する制約 : 豚肉だけでなく動物性の食品

衣に関する制約 : 出してはいけない部位

礼に関する制約 : 1日5回の礼拝, 男性は毎週

金曜日のお昼に集まる

問題意識

- 日本の地域社会で共生するために

ムスリムはこれらの制約を日本人に伝えていく必要がある

⇒ 日本語が必要

実践研究

□ ムスリムのためのサバイバル日本語 講座

平成23年度文化庁委託事業

「生活者としての」外国人のための日本語教育事業

統括責任: 深江 新太郎

授業デザイン: 妹川 幸代

実践研究

□ 講座の概要

期間：平成23年9月26日～平成23年12月16日

時間：68時間

対象：成人ムスリム

国籍：インドネシア，マレーシア，バングラデシュ

,

エジプト，シリア，モロッコ

受講生数：15名（女性9名，男性6名）

実践研究

□ 講座の特色

ムスリムが直面する生活上の困難な場面を
インタビュー調査により抽出

⇒ 場面・トピックシラバスを作成

実践研究

□ 講座風景



福岡市東区
サニ一

実践研究

□ ムスリムが抱える制約

～ ムスリムと実際に対話して見えたこと

・行きたいところに行けない

・食べたいものが食べられない

・住みたいところに住めない

実践研究

□ 行きたいところに行けない

美容室 : 男性の目に触れるから (女性)

病院 : 女性のお医者さんだけ (女性)

交通機関 : 込み合って男性と触れるから

(女性)

実践研究

- 食べたいものが食べられない

おいしいそうなもの

でも

アルコールと動物性原材料を含むと食べられない

実践研究

□ 住みたいところに住めない

(例) 城浜保育園

ハラールの給食がある

教職員の理解がある

⇒ ムスリムが集住する

住みたいところに住むのではなく、
コミュニティがある場所に住む

実践研究

- 解決する「手段」として存在する日本語

日本語を「通して」、その制約を伝える



「居心地のよい生活環境」を獲得する

実践研究

- 異文化共生のために日本語教育ができること

「生活者としての」

外国人のための日本語教育の言語観

⇒ 日本語はその地域社会で生活しやすくなるための「道具」である

実践研究

- 異文化共生のために日本語教育ができること

「生活者としての」

外国人のための日本語教育の目標

日本語という「道具」を与え

それを運用する「能力」を高めること

実践研究

□ 今回の講座の目標

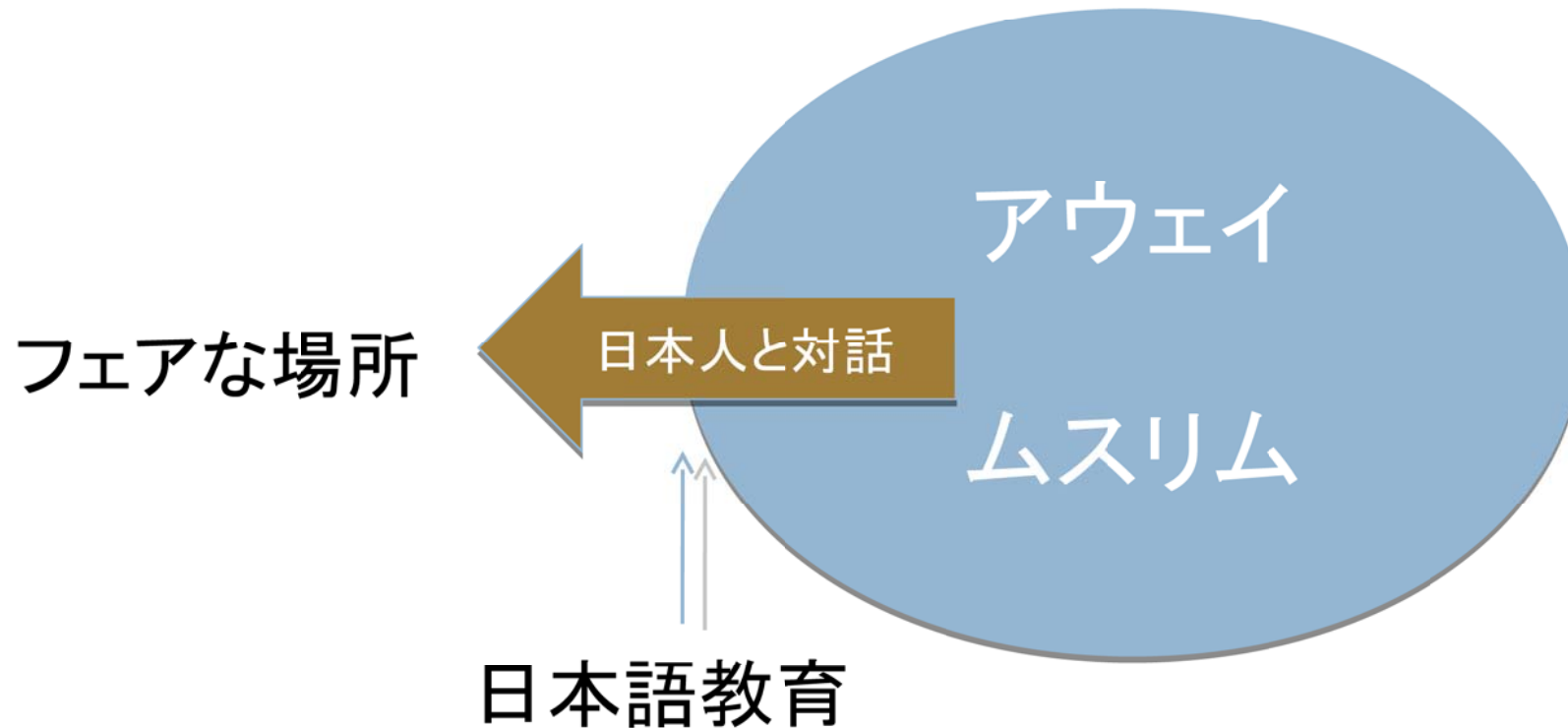
ムスリムに必要な日本語能力を養成

(例) 豚肉が食べられないことを伝えられる

⇒ ムスリムが自ら必要な生活環境を獲得

実践研究

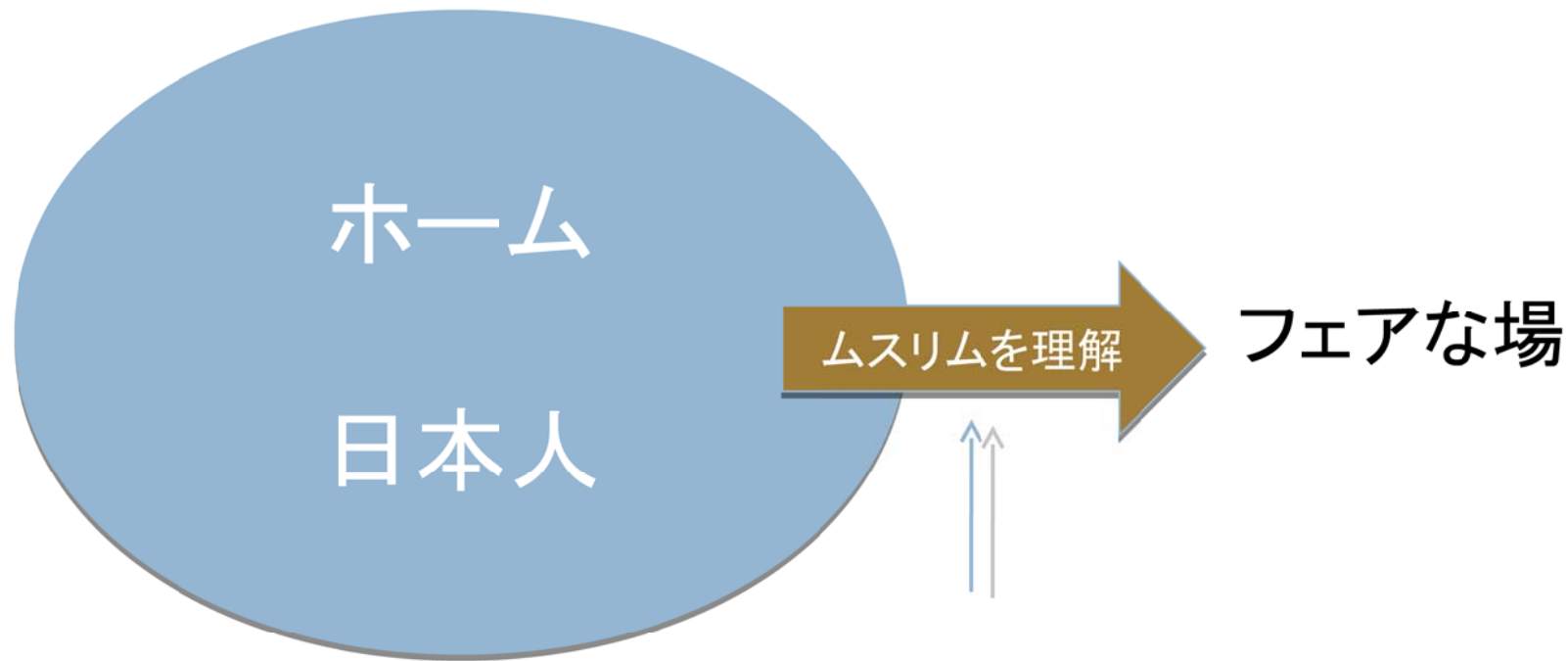
- アウェイからフェアな場所へ



「対話手段」としての日本語教育

実践研究

- ホームからフェアな場所へ

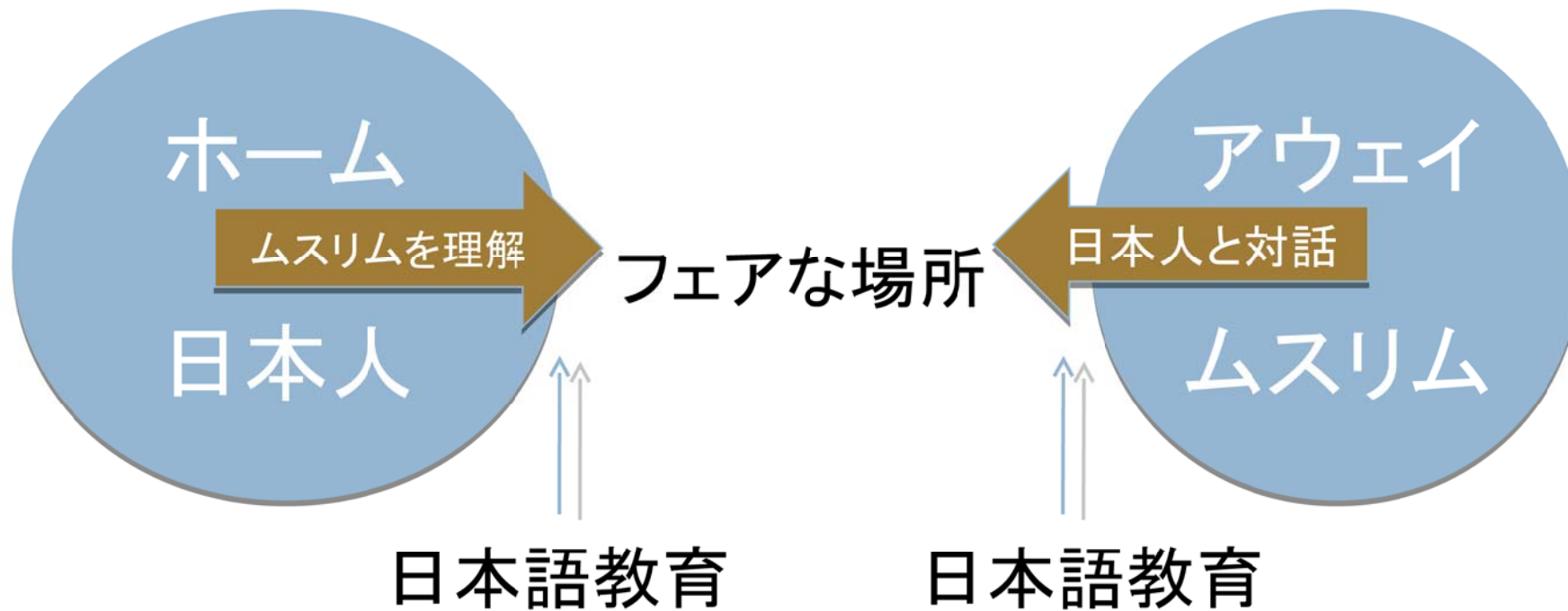


日本語教育

「理解教育」としての日本語教育

まとめ

- ホームでもアウェイでもないフェアな場所



まとめ

- 異文化が共生するために

「生活者としての」外国人の日本語教育では限界

(アウェイからフェアな場所へ)

「〇〇〇としての」日本人の日本語教育が必要

(ホームからフェアな場所へ)

実践研究

□ 異文化理解〈教育〉

こどもたち : 学校教育の中で行える

おとなたち : 地域社会の中心はここ



どのように〈教育〉するか？

まとめ

- 一つの間いかけ

このまちはだれのものですか？